

団体間で協働化できる取組（案）【観光分野】

1. 背景

「富県宮城推進会議」において、平成20年10月から開始される「仙台・宮城Destinationキャンペーン(DC)」の成功を目指しているが、大規模なキャンペーンであるDCが終了した後の観光客の減少が懸念されることから、そのリバウンド対策として、農商工連携による産業観光の振興や教育旅行の誘致拡大などが重要との議論があった。

平成19年における国民一人当たりの宿泊観光回数及び宿泊数は、国土交通省「旅行・観光消費動向調査」によると、それぞれ1.54回/年、2.47泊/年となっており、平成17年をピークに減少化傾向にある。

このような中、今後とも持続的な観光産業の振興を図るためには、引き続き観光資源の磨き上げと、それらを活用しながら新たな観光需要の開拓が必要となる。

国においては、平成20年度から「子ども農山漁村交流プロジェクト」を開始する一方、近年の小中高生の教育旅行は、「生きる力」や「就業教育」などの「体験」を取り入れたものにシフトしてきており、今後教育旅行の増大が見込まれるほか、大人においても知的向上のための産業観光や体験学習の機会の充実が求められている。

2. 目的

教育旅行等においては、これまでの教科書に掲載された史跡を巡っての「過去に学ぶ」ことを主としたものから、史跡のみならず「感動」や「実感」、「地域の人々とのふれあい」、就業体験を味わえる「未来を拓く」教育旅行へ転換しつつある状況を踏まえ、産業団体が連携して、地域の農林漁業体験、工業や商業が連携した産業観光等の受入れ体制の充実を図るとともに、他地域への積極的なPR活動を行い、地域の活性化、自立した魅力ある観光産業を構築し、我が県への観光集客数の増加を図る。

(1) 主なターゲット：首都圏等の教育旅行、県内の校外学習の誘致

3. 概要

(1) 事業名 (仮称)みやぎ型史農工商連携・産業観光推進事業

(2) 想定協働団体 宮城県農業協同組合中央会、宮城県漁業協同組合、(社)みやぎ工業会、宮城県商工会議所連合会、宮城県商工会連合会、(社)東北ニュービジネス協議会、(社)宮城県情報サービス産業協会、宮城県観光誘致協議会、(社)東北経済連合会 等

その他関係団体：みやぎグリーン・ツーリズム推進協議会、みやぎ地域づくり観光応援団 等

(3) 事業概要

- ・受入態勢整備
- ・地域づくり観光リーダー育成
- ・魅力ある産業観光・教育旅行のガイドブック・パンフレット・DVD・ホームページ等の新規作成
- ・旅行商品造成のための情報提供
- ・誘致活動